柏市立柏病院広報誌

かし和

平成２５年１月
＜第７号＞
柏市立柏病院
［住所］　柏市布施 1-3
［電話］　04-7134-2000

開院２０周年

新年おめでとうございます。
当院は平成５年７月に開院し、今年で２０周年になります。国立柏病院だった施設を柏市と柏市医師会が引き受け、４科（内科、外科、整形外科、リハビリ科）、一般病床１００床の市立病院としてスタートしました。現在は１５科、２００床にまで拡充しています。今後は、手狭になった施設の改善が大きな課題ですし、同時に診療水準も引き上げてまいります。
今年も、みなさまの御支援をお願いいたします。

病院長　野坂　俊壽

顔　連載インタビュー　第4回

今回は　新春　ということで、病院長　野坂　俊壽　医師です。

Ｑ　先生のご出身は？／愛媛県の東の端、香川県との県境の小さな町の出身です。

Ｑ　子供のころはどんな子でしたか？／田舎の元気な子供でした。野球もしましたし、セミやカエルを採って遊んでいました。

Ｑ　学生時代に熱中したものは？／中学・高校は読書、大学は６年間剣道をやっていました。司馬遼太郎の「竜馬がゆく」が好きで、自分も竜馬と同じように１８歳で東京に行ったら剣道をやりたい！と思い、始めました。大学卒業後はやっていませんが、息子２人は剣道をやっています。

Ｑ　医師になろうと思ったのは？／小学生まで一緒に住んでいた曽祖母がひどい神経痛に苦しんでいて、それをなんとかできるような仕事をしたいと子供心に思っていました。自分で何かを治したい、その実感を得たいという思いが大きくて外科医になりました。

Ｑ　医師になってからの忘れられないエピソードはありますか？／刑務所の医者をしているとき、診察した受刑者から「今までの医者は話を少し聞いて、薬を出しておしまいだった。体に触れてくれたのは先生が初めてだ。」と言われ、感謝されました。患者さんの体に触れるというのは、診療の基本かなと再認識した、忘れられないエピソードです。

Ｑ　休みはどんなことをして過ごしていますか？／たまっている録画番組や本を片付けています。それと週１回、ジムに通ってジョギングをしています。長い休みがあれば旅行に行きたいですね。去年の夏には１人でアメリカへ行き、レンタカーでテキサス周辺の５つの州を２０００ｋｍドライブしました。仕事がないと元気なんです。（笑）

Ｑ　先生の健康法は？／ジョギングの他に、半年に１回デンタルチェックで歯医者に通っています。虫歯のチェックと早めの治療、これはお勧めです。

Ｑ　就任した当時と現在で変わったところはありますか？／私は自ら手をあげてこの病院に来たんです。下見に来たとき、温かくて優しい空気を感じて気に入ったんです。それで、ここで働きたいと思いました。その時と比べて病院の規模が大きくなってきました。患者さんの数、職員の数ともに増えています。ただ建物も駐車場も変わっていませんので、非常に手狭な状態になっていて申し訳ないと思っています。今後は施設をなんとか充実させていきたいですね。一緒に働いてくれている職員のやる気を十分に発揮できるような施設にしていきたいと思っています。

Ｑ　病院職員に求めることは？／患者さんの病気だけじゃなく、全人格を見て丁寧に対応してほしいというのが私の願いです。ここの職員は忙しい中にもどこか余裕があって、温かいというすごく良い点を持っていると思うので、それは変わらずに持っていてほしいなと思っています。

Ｑ　新年の抱負はありますか？／今年は秋に大がかりな防災訓練をやりたいと思います。病院全体をあげて、医師会の先生方にも協力していただいて、地震や大きな事故があったときの対応に備えたいと思います。公立病院として緊急時は地域の中心になりたいですし、訓練は必要だと思います。

Ｑ　患者さんへ一言お願いします。／いろいろなことで気付かれたことがありましたら、『みなさまの声』にぜひご意見をお願いします。それから２年に１度、患者満足度調査も行っていますので、その時期に当たりましたらご協力をお願いします。

野坂　俊壽　（のさか　としひさ）

病院長・外科医師

プロフィール
愛媛県生まれ。東京医科歯科大学第一外科に入局。平成１５年当院外科部長に着任。平成１９年、病院長に就任。どの患者さん、どの職員にも丁寧な言葉遣い、温かみのある態度で接する。外来診察日は、火・水・土曜日。

病気のお話シリーズ　③

『糖尿病』

＜内分泌・代謝内科＞

今回は、広報誌読者アンケートで知りたい病気の第１位だった『糖尿病』です。内分泌・代謝内科の医師に、『糖尿病教育入院』を中心にお話を聞きました。

今回ご協力いただいた
内分泌・代謝内科の医師を御紹介します！

Q. 『糖尿病教育入院』とは何ですか？

A. 現在日本では、糖尿病治療中の方・強く疑われる方・可能性が否定できない方を併せると 2000 万人以上と推定されており、糖尿病は比較的よくある病気と言えます。しかし今のところ、薬にしても手術にしても糖尿病を完全に治す方法はありません。糖尿病治療の目標は、糖尿病の方が高血糖によって起きる不便な状況（合併症）に陥らないよう、糖尿病ではない方と同じように生活できる良い健康状態を保つことです。当院では、糖尿病と上手につきあっていくために、患者さんやご家族が糖尿病について深く理解し、治療に必要な食事や運動などの生活習慣を見直すための“教育入院”を行っています。

Q. どんな方が対象ですか？

A. こんな方にお勧めです！

糖尿病と現在の患者さん自身の状態について知っていただくことが最大の目的であるため、病状が悪くなって入院するという形の入院ではありません。以下のような方にお勧めします。

- 糖尿病と初めて言われた方
- 以前より糖尿病と言われていて、食事や運動も自分なりに頑張っているのに良くならないと感じている方
- 新しい注射やお薬を勧められたので、同時に食事や運動も見直してみようと思った方
- 糖尿病のこと、今の自分の糖尿病・合併症の状態をもっと知りたい方

など

Q. 『糖尿病教育入院』の具体的な内容（プログラム）を教えてください。

A. 糖尿病の方が長く元気でいられるようにするためのヒントがたくさん詰まっているプログラムです。糖尿病とはどんな病気か、食事・運動など療養のポイントを**それぞれ専門のスタッフ（医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、理学療法士）**＜詳しくは、第３面の『ＤＣＳＴ』もご覧ください。＞が説明します。講義と並行して、食事や飲み薬・注射薬の見直し、糖尿病合併症の状態を評価する検査も行います。
入院期間は約２週間と設定しています。仕事を休めない、長期間家を空けられないなど２週間の入院が難しい方は１週間、初めて糖尿病と診断された場合などじっくり取り組みたい方は２週間以上の入院も可能です。講義は月曜から翌週月曜の８日間で１コースとなっています。

≪プログラム例≫

○月×日(金)　入院	○月△日(土)	○月□日(日)	○月☆日(月)	○月◇日(火)	○月▽日(水)
食事（　　kcal）					
運動（　　分）					
血糖測定					
心電図 脈圧脈波検査			頸動脈エコー	腹部エコー	
			講義 『糖尿病とは』	講義 『薬の話』	講義 『フットケア』

＜第５面＞の『糖尿病患者さんに向けての看護外来』もご覧ください。

教育入院をしてみようかと思ったら・・・ ➡ 外来受診の際に主治医やスタッフにご相談ください！

『糖尿病』に関連して・・・

DCST ＜糖尿病サポートチーム＞

（Diabetes Care Support Team）

当院では、よりよい糖尿病治療を行うため、様々な職種の職員が協力をして、糖尿病治療及び教育入院に取り組んでいます。ここでは、チームに所属している各科の取り組みを紹介します。

栄養科

管理栄養士が、教育入院中の患者さんに食事療法についてお話をしています。
検査データを基に、普段の生活習慣などを聞き取りながら、指示エネルギーに見合った適正量やバランスの良い食事の話をしていきます。
また、患者さんと一緒に昼食を食べながら、実際にご飯を計量したり、食品交換表に基づいて単位の確認をしています。そして病院での食事内容や味付けを覚えて帰って頂き、家庭での実践に向けてのお手伝いをしています。

看護部（病棟）

看護師が、「フットケア」について説明を行っています。
糖尿病足病変（足潰瘍・足壊疽）の原因として１番多いのは靴擦れです。足を守るためには毎日の観察が基本となります。１０秒に１本、世界のどこかで糖尿病患者さんの足が切断されていることをご存じですか？
教育入院では、足の観察方法・靴の選び方・日々のケア方法をお伝えしています。
＜第５面の『フットケア外来』もご覧ください。＞

当院の糖尿病サポートチーム

リハビリテーション科

理学療法士が、運動療法についてお話をしています。主に運動の効果と、より効果的に行うための具体的な方法を提案しています。運動を身近な治療として前向きに行ってもらいたいと考えています。運動は、糖尿病はもちろんのこと、他にも様々な治療効果があります。安心・安全で、かつ効果のある運動を提供することで、患者さんの豊かな生活に貢献していきます。

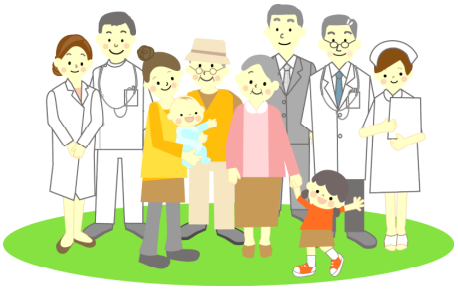
１１月１４日に行われた
稲澤医師の講演会

薬剤科

日本糖尿病療養指導士の資格を持った薬剤師が、薬物治療についてお話をしています。
治療に使われている薬を理解する事によって、前向きに治療出来るように手助けをしています。
また、安心して治療を受けていただくため、薬を使用する事によって起きる低血糖とその対処法についてもご説明しています。

検査科

臨床検査技師が、ＨｂＡ１ｃ（ヘモグロビン・エーワンシー）や合併症の検査についてお話をしています。
ＨｂＡ１ｃとは、私たちの体を流れる血液中の赤血球に血糖（ブドウ糖）がくっついたものです。赤血球の寿命は約３ヶ月で、毎日新しいものが作られ、そして壊されるということを繰り返しています。そのため、ＨｂＡ１ｃは過去１～２ヶ月の血糖値を反映しており、良好な血糖をコントロールするために役立つ検査とされています。



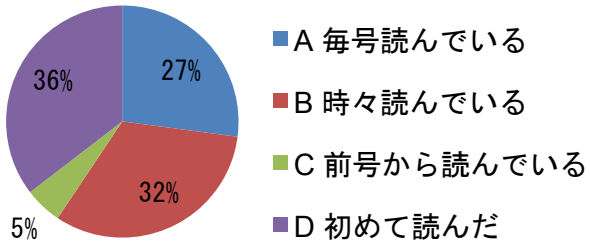
＜第５面＞にも糖尿病関連の記事がございます。そちらもご覧ください。

広報誌読者アンケート

集計結果のご報告

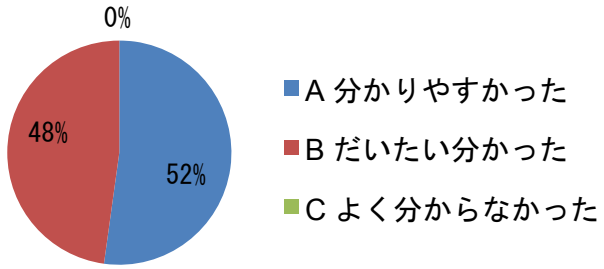
前号<第６号>で、読者アンケートをさせていただきました。アンケートにご協力いただいた読者のみなさま、ありがとうございました。アンケートの集計が終了しましたので、このページで結果報告をさせていただきます。
（誌面の関係上、全ての結果を掲載することが出来ません。ご容赦ください。）

Q. 過去に広報誌を読んだことがありますか？



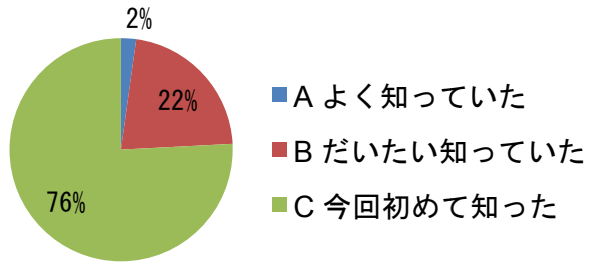
第6号にして、初めて読んでいただいた方が3割以上もいらっしゃいました。もっと浸透するように頑張りたいと思います。

Q. 病気のお話『心筋梗塞・狭心症』でしたが、話の内容は分かりやすかったですか？



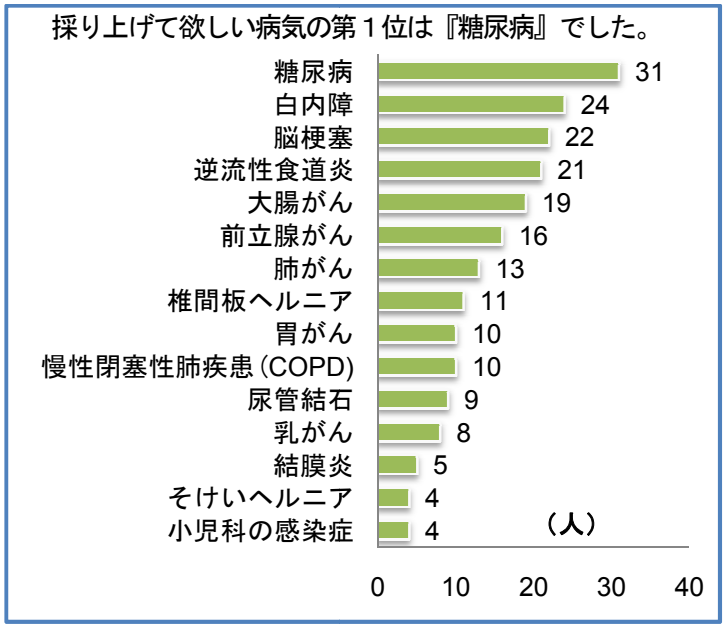
よく分からなかったと回答された方がいませんでした。循環器内科の医師に分かりやすく説明をしていただき、広報委員会も感謝しております。次号以降も、『病気のお話』をいろいろな医師にしていただこうと考えています。

Q. 部門紹介『ME室』でしたが、ME（臨床工学技士）という職業を御存知でしたか？



7割以上の方が、ME（臨床工学技士）を初めて知ったのは意外でした。病院に勤めている人にとってはよく知られた職業ですが、そうでない方にとっては新鮮なことだったと思います。いろんな方に知ってもらえて、MEさんも喜んでいるのではないでしょうか。

Q. 次号以降で、採り上げて欲しい病気はありますか？（複数回答可）



Q. 今後採り上げて欲しいことや医療についてお知りになりたいことがありましたら、お書きください。

いろいろなご意見をいただきました。一番多かったのが『薬』のこと、次いで『病気』、『食事』でした。『薬』のことであれば薬剤師、『食事』のことであれば管理栄養士といったように、病院にはさまざまな専門職員がいます。今後も各部署の協力を得て、読者の方がお知りになりたいことを掲載していきたいと考えています。
また今号で紹介した『糖尿病』の講座のように、当院で行われる市民一般向けの講座の情報が入りましたら、その都度お知らせしたいと思います。

広報委員会のメンバーです！
今年もよろしくお願いします。

＜第２･３面に続いて、『糖尿病』関連のお知らせです。＞

糖尿病患者さんに向けての看護外来

『糖尿病看護外来』『糖尿病外来療養指導』『フットケア外来』のご案内

糖尿病看護認定看護師　山中　彩

『糖尿病看護外来』　第1木曜日、第3火曜日、第4月曜日

食事や運動を自分なりに頑張っているのに良くならないと感じている方を対象としています。食事・運動・薬の影響を血糖値とともに振り返り、実行可能な目標を一緒に考えていきます。ご希望の方は外来受診の際、主治医にご相談ください。糖尿病看護認定看護師がお話を伺います。

『糖尿病外来療養指導』

糖尿病教育を受けて退院した患者さんを対象に、家での療養生活についてお話を伺います。
４階病棟退院時に予約をします。

『フットケア外来』　第2金曜日

糖尿病神経障害（痺れやこむら返り等を自覚している患者さん）、閉塞性動脈硬化症、足のトラブルでお悩みの方を対象に予防的フットケア（足の観察・爪切り・やすりかけ・日常ケア方法の指導・靴の選び方指導など）を行っています。ご希望の方は外来受診の際、主治医にご相談ください。

ワンポイント『フットケア』アドバイス

寒い季節、足の冷え対策として湯たんぽやカイロを使用していませんか？
足のしびれを自覚している患者さんは低温やけどに注意が必要です。
カイロ → 直貼りはやめましょう。
湯たんぽ → 足に当たらないように、布団の中に入るときには外しましょう。

＜第４面『読者アンケートの結果』の続きです。＞

Q. 広報誌に対してご意見・ご感想などがありましたら、お書きください。

誌面の文字や色づかいについて、ご意見をいただきました。色づかいに関してですが、カラフルで見やすいといった意見がある反面、もう少しシンプルな色使いをというご意見もありました。じっくりと読んでいただくところは、白地を背景にして黒い文字にするよう心掛けております。また文字が詰まり過ぎていて読みづらいとのご指摘も受けました。文字の大きさを保ちつつ、狭い誌面でも多くのことを掲載したいという思いが強すぎてしまいました。ご指摘いただいたところは、少しずつ改良を重ねていきたいと考えています。また、永く続けてくださいとの応援のメッセージを多くいただきました。ありがとうございます。
今後も手に取りたくなるような、読みやすく、内容が充実した誌面を心がけていきたいと考えておりますので、末永く病院広報誌『かし和』をご愛読いただけたらと思います。

当院の取り組み

クリスマス会の開催（看護部）

１２月１８日、毎年恒例となっているクリスマス会を開催しました。
ボランティアグループ「患者を支える会」の皆さんとともに、病棟・外来を回りました。ライアー（竪琴）に加え、今年はギター・ハーモニカの演奏に併せたコーラスとなり、大変好評でした。また多くの患者さんやご家族の参加もいただき、楽しい時間となりました。
その後登場したサンタクロースとトナカイ達は、“アロマの香りのする、赤い靴のストラップ”を、ご入院中の患者さんへお渡ししました。このストラップはクリスマス会限定、ボランティアの皆さんと職員による手づくりの品となっています。

NEWS

千代延　記道医師＜外科＞が着任しました。（１０月）

油谷　和毅医師の異動に伴い、１０月より千代延　記道医師が着任しました。千代延医師の外来担当曜日は、火・木・金曜日です。遅くなりましたが、千代延医師の紹介をさせていただきます。

千代延　記道（ちよのぶ　のりみち）**＜外科＞**

出身地／東京都　**出身大学**／東京医科歯科大学　**子供のころの夢**／宇宙飛行士
趣味・特技／大学時代に柔道を少々　**診療に心がけていること**／分かりやすい診療ができるよう精進しています。今後ともよろしくお願いします。

救急協力者として、須賀　八寿子看護師が野田市消防本部より表彰されました。（１１月）

１１月２１日、野田市消防本部より救急協力者として、当院の須賀八寿子看護師が表彰されました。野田市文化会館で７０代の女性が心肺停止を起こし、その場に居合わせた須賀看護師が一次救命処置（ＢＬＳ：Basic Life Support）を施したのち、駆け付けた救急隊が近くの病院に搬送。この女性は一命を取り留めました。そのときのことについて、須賀看護師にお話を聞きました。

Q. 救命できた要因は？／発症して早い時間に一次救命処置を行えたのが良かったかと思います。また救急隊の到着も早く、搬送先の病院も近かったのが幸いしました。

Q. 一次救命処置（ＢＬＳ）を学んだのは？／当院で定期的に行われている講習会には参加していたのですが、そのことが起きるちょうど２週間前にも受講をしていました。本当に良かったです。

Q. 現場は緊迫していたと思うのですが。／緊迫した場面でも、的確に一次救命処置を行えることが大事だとは思うのですが、一番は勇気をもって行動することだと思いました。

表彰を受ける須賀看護師（写真右）

須賀看護師はこの女性の娘さんと知り合いだったらしく、その後順調に回復しているとの報告を受け、現在では社会復帰をされたそうです。

講座開催のご報告

松葉地域健康講座「小児の救急対応について」を開催しました。

１２月１３日（木）に当院会議室にて、小児科科長の鈴木正敏医師による小児の救急対応をテーマとした健康講座（松葉地域柏市民健康づくり推進員・柏市主催）を開催いたしました。

鈴木医師の「救急対応が必要なのはどういう時か」、「自宅でできる対応法」などの具体的な解説に、ご出席いただいた地域の方々からは「とても参考になった」、「また開催して欲しい」など、好評をいただきました。

ご出席いただいた多くの方々、このような機会をいただいた松葉地域柏市民健康づくり推進員・柏市のご担当の方々に感謝申し上げます。

小児科科長　鈴木正敏医師

講演資料は、**当院ホームページ**からダウンロードできます。また**ホームページ**では、広報誌に載っていない情報も掲載しています。是非アクセスしてみてください。

柏市立柏病院　**検索**

救急外来を受けられる方へ

当院では、救急外来において、夜間・休日に体調が急変、悪化した方の診療を行っています。救急外来の受診にあたっては次の点にご理解をお願いいたします。

① 重症度により順番が変わることがあります。
② お薬は応急対応のための必要最低限の処方となります。
③ お会計は預かり金をさせていただき、後日の精算となります。

なお、重症者の緊急対応などにより、診療をお受けできない場合もあります。まずは電話でお問い合わせください。

☎　04-7134-2000（代表）

編集後記

今回掲載させて頂いたみなさまからのアンケート結果を参考にしながら、これからも読みやすい広報誌作りに取り組んでいきたいと思っています。

広報委員　中田　ちえり（管理栄養士）